

学校教育学専攻後期

共通科目(学校教育学専攻)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JC001	学校教育学特論	1	2.0	1 - 3	通年	随時	人間 B532	井田 仁康, 甲斐 雄一郎, 片平 克 弘, 根津 朋実, 樋口 直宏, 藤田 晃之, 田中 マリア	学校教育に関する諸問題を検討するための理論と方法について概説する。	
02JC011	学校教育学演習	2	2.0	1 - 3	春A	随時		唐木 清志, 清水 美憲, 吉田 武男, 磯田 正美, 蒔苗 直道, 長田 友紀, 國分 麻里	学校教育学研究の成果と課題について、講義・演習・実習を組み合わせ、多角的な視点から考究する。	
02JC021	教育学海外演習	2	1.0	1 - 3	通年	随時		井田 仁康	国際的に活躍できる研究者としての知識や技能を養うことを目的とする。そのために、海外での自主的な活動(海外実習, 短期語学研修, インターナシップ, フィールドワーク, 海外ボランティア, 留学, 国際学会での発表等)に参加する。	

専門科目(学校教育学専攻)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JC101	カリキュラム研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時		根津 朋実	「教育課程」や「学習指導要領」といった基本的な用語に関し、大学の学部段階や教職課程の基礎知識の保有を前提としつつ、今日のカリキュラム研究における多様な動向を理解することを目指す。理論面では、1960年代「隠れたカリキュラム」から1970年代「再概念化(主義)」以降に展開した、多様な「カリキュラム」概念の動向を概観する。実践面では、主に近年の研究開発学校や教育課程特例校などを検討する予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	2020年度より2年おき開講。 0BTA301と同一。
02JC102	カリキュラム研究法II	2	3.0	1 - 3					ここ20年ほどの「カリキュラム(・)マネジメント」に関する諸文献や資料を、批判的に講読する。いわゆる「Plan-Do-Check-Act(ion)サイクル」と並び、現在政策的に用いられる「カリキュラム・マネジメント」は、研究面の用法とは明らかに異質である。この科目では、「カリキュラム(・)マネジメント」の淵源を1970年前後の欧州SBCD(School-Based Curriculum Development)論の動向に求めつつ、関連する教育課程経営などの諸論考を検討対象とする予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	0BTA302と同一。 2020年度開講せず。
02JC103	カリキュラム研究法III	2	3.0	1 - 3					この科目では、カリキュラム研究の方法的な側面を扱う。教育学を含む社会科学の研究方法は多種多様であり、カリキュラム研究もその例外ではない。すなわち、歴史や哲学的なアプローチ、国際比較、観察や聴き取りといった質的調査、質問紙調査に代表される量的調査、特徴的な実践事例の検討など、多面的かつ複合的に研究方法を組み合わせる傾向がみられる。この科目では、特に研究方法に注目して、各種ジャーナル等の学術論文を講読する。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	0BTA303と同一。 2020年度開講せず。
02JC111	教育方法学研究法I	2	3.0	1 - 3					学習指導理論と学習過程を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、学習指導理論と学習過程に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	0BTA311と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JC112	教育方法学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時		樋口 直宏	教授スキルと指導効果を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教授スキルと指導効果に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	2020年度より2年おき開講。 OBTA312と同一。
02JC113	教育方法学研究法III	2	3.0	1-3					教師効果と学習意欲を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と学習意欲に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	OBTA313と同一。 2020年度開講せず。
02JC121	道徳教育学研究法I	2	3.0	1-3	通年	随時		田中 マリア	道徳教育学研究の基礎的事項をおさえるため、道徳教育に関する用語や位置づけ、特質などについて、大学の学部段階や教職課程の基礎知識を確認するとともに、これまで道徳教育学分野において積み重ねられてきた議論について要点をおさえる。具体的には受講者とともに道徳教育に関する基本文献や論争史などを輪読し、道徳教育学研究の基礎的事項について理解を深めつつ、適宜、受講者のとくに関心のある課題を重点的に討議する。これらを通じて、道徳教育学研究に必要な基礎的知識・能力等を育てる。	2020年度より2年おき開講。 OBTA321と同一。
02JC122	道徳教育学研究法II	2	3.0	1-3					道徳教育学に関する学術論文を収集整理し、道徳教育学研究において、これまでいかなる研究課題が検討されてきたのか把握する。また、それらを読解する中で、道徳教育学研究を掘り下げていく際の視点や論点などについての勘所をつかむ。さらに、それら読解してきた学術論文をはじめ、道徳教育の先行研究群に対して、受講者のとくに関心のある課題について各々さらに掘り下げ、討議する。これらを通じて、道徳教育学分野における論文作成にかかわる研究能力の育成を図る。	OBTA322と同一。 2020年度開講せず。
02JC123	道徳教育学研究法III	2	3.0	1-3					道徳教育学研究分野における論文執筆技能の向上を目的としつつ、受講者が研究能力を培うための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究の系譜に位置づけ直し、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について掘り下げていく。受講者は順番に自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めていく。	OBTA323と同一。 2020年度開講せず。
02JC131	教育工学研究法I	2	3.0	1-3	通年	随時			教育工学に関する目的につき、当番の院生による研究報告に基づく討論を通して検討し、研究能力を養う。	
02JC132	教育工学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時			教育工学に関する内容につき、当番の院生による研究報告に基づく討論を通して検討し、研究能力を養う。	
02JC133	教育工学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時			教育工学に関する方法論につき、当番の院生による研究報告に基づく討論を通して検討し、研究能力を養う。	
02JC141	キャリア教育学研究法I	2	3.0	1-3	通年	集中		京免 徹雄, 藤田 晃之	キャリア教育の目的について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、戦後日本の学校教育における職業指導・進路指導・職業教育、及び、アメリカを中心に理論化がなされてきた vocational guidance、career guidance、career education、career and technical education等との比較検討を、主要な先行研究を対象として分析しつつ議論することを中核とする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通じて、受講者の研究能力の向上を図る。	OBTA331と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JC142	キャリア教育学研究法II	2	3.0	1-3					キャリア教育の内容について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達の段階に即して育成すべき資質・能力とそれらにふさわしい指導内容の検討(国内外の先行研究の分析)を中核に据えつつ、資質・能力をめぐるベンチマーク(到達目標)の設定や学習状況のモニタリング、学習成果の評価の在り方も視野に収めて議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	OBTA332と同一。 2020年度開講せず。
02JC143	キャリア教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時		京免 徹雄, 藤田 晃之	キャリア教育の方法について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方を扱う。前者に関しては特に教科・科目を通した実践の在り方、後者については予防・開発的な支援・指導の在り方に焦点をあてながら、国内外の関連研究の分析を行い、議論をする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	2020年度より2年おき開講。 OBTA333と同一。
02JC201	社会科教育学研究法I	2	3.0	1-3					社会科教育の論文作成の基礎について考察する。論文の目的の設定、論文の枠組みについて講義や討論を通して考察し、論文の基礎についての理解と考察を深める。	OBTA341と同一。 2020年度開講せず。
02JC202	社会科教育学研究法II	2	3.0	1-3					社会科教育の先行研究となる論文が、どのように目的を設定し、論文の枠組みを立てているか分析し、その結果を共有し批判的考察をすることで論文を構成する能力を育む。	OBTA342と同一。 2020年度開講せず。
02JC203	社会科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時		井田 仁康, 國分 麻里, 唐木 清志	社会科教育学の目的、方法、内容を踏まえて、どのようにオリジナリティを持たせた論文を作成できるのか、自分の研究成果を論文として書きながら考察し、論文作成の実践力を身につける。	2020年度より2年おき開講。 OBTA343と同一。
02JC211	人文科教育学研究法I	2	3.0	1-3					現時点における言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)研究の範囲とそれぞれの水準を把握することをめざして、主たるレビューに依拠しつつ関連分野における先行研究の講読、討議を行う。次いで受講者が各自の関心に即した領域についてテーマを設定し、自らの先行研究の収集・整理によって行ったレビューを行い、他の参加者との討論を通してレビューの内容を洗練させるとともに自らの研究課題を鮮明にすることを目指す。	OBTA351と同一。 2020年度開講せず。
02JC212	人文科教育学研究法II	2	3.0	1-3					言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)の実態に即してその問題を明らかにするとともに、それぞれの問題の構造を理解することを目指す。そのために国際比較、また主要なトピックにかかわって歴史的な視点に基づく基本的な文献や原資料を用いつつ、教育課程における言語教育の位置づけ、教材選択の視点、指導方法の選択、児童生徒の学習の実際、そして評価の在り方など、時宜に応じたテーマに関して意見交換・討論を行う。	OBTA352と同一。 2020年度開講せず。
02JC213	人文科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時		名畑目 真吾, 甲斐 雄一郎, 長田 友紀	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)に関する調査研究に関して、代表的な研究や最新の研究を読んだり各自の調査研究を報告し合ったりすることで、実験的調査や観察調査・フィールドワークなどの手法を洗練させることをねらう。第1回から第5回は基礎的・代表的な文献を批判的に検討する。その際、国語教育だけでなく日本語教育や英語教育などの研究もみることで他領域の研究目的や手法との共通性や差異についても考え研究手法の幅を広げていく。第6回から第10回は、各自の調査研究について報告を行いながら討議する。その際、当該調査手法の適否だけでなく、他の視点からの分析や別手法・分析が行えないかなどについても検討することで、さらなる調査や分析に発展させる。	2020年度より2年おき開講。 OBTA353と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JC221	数学教育学研究法I	2	3.0	1-3					数学教育学の内外の文献の検討を通して研究方法論の基礎を学ぶとともに、具体的な実証的研究の事例を批判的に検討する。特に、数学学習、数学的問題解決、数学における理解等に関する実証的研究の進展を、各時代における他の研究分野からの影響と研究パラダイムの進展に注意しながら検討するとともに、その根底にある研究方法論の展開を時系列に沿って検討する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題(リサーチクエスト)の設定のあり方と研究方法論を学ぶ。	OBTA361と同一。 2020年度開講せず。
02JC222	数学教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時		磯田 正美, 清水美憲, 蒔苗 直道	数学教育におけるカリキュラム改革について、海外の事例に関する文献講読を通して検討し、数学カリキュラムを比較文化的観点を加味して検討する。また、数学カリキュラムの構成原理、学問領域としての数学と学校数学との関係のあり方を規範的に考察する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題の意義とその具体化のあり方、その研究目的に基づく適切な研究方法の考察を行う。	2020年度より2年おき開講。 OBTA362と同一。
02JC223	数学教育学研究法III	2	3.0	1-3					数学教育学における理論的研究・歴史研究を中心に内外の文献を検討し、研究方法論について学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げ批判的に検討する。特に、数学教育研究が数学教育の教育課程や実践の改善に対して果たす役割を考察し、各自の研究目的からみた数学教育改善への示唆を導出する。この過程で、各自の研究課題に引きつけて、数学教育学の特質とその意義を考察する。	OBTA363と同一。 2020年度開講せず。
02JC231	理科教育学研究法I	2	3.0	1-3					理科教育学の基本的テーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での基礎を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書を読み、その研究方法と着想について論ずる。ここでは、理科教育・科学教育の基礎研究について、特に、理科教育研究の問いのあり方、探究的な科目としての「理科」のあり方、女子の理科教育、科学教育改革の動向等を取り上げ、その研究方法論の妥当性を探る。	OBTA371と同一。 2020年度開講せず。
02JC232	理科教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時		遠藤 優介, 山本 容子	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教育の内容・カリキュラム研究の方法論について検討する。具体的には、教科書分析、教材分析、教育内容としてのNOS(Nature of Science)論、アナロジー論等の研究方法を扱う。	2020年度より2年おき開講。 OBTA372と同一。
02JC233	理科教育学研究法III	2	3.0	1-3					受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での高度な実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教授学習研究の研究方法論について検討する。具体的な事例としては、科学概念変容研究、協同学習と社会的構成論、アーギュメンテーション論等の研究方法を扱う。	OBTA373と同一。 2020年度開講せず。